



# 賢者タウの 成功脳のつくり方

作: Keiko

賢者タウとその弟子サトルの物語は、「賢者タウの質問箱」というタイトルで、TAWPRESS創刊当時に連載していた伝説の物語です。復活のラブコールにお応えして、今月号からパワーアップして再開します！

賢者タウ



タウ星のあるじ。TAW理論の研究に人生をかけている。

サトル



賢者タウの弟子。熱心だが、まだまだ頼りない青年。

## 第1話 マスターTAWで学ぶこと



### サトルがTAWを学びはじめたわけ

先生、お母さんから、「おまえは何の勉強してるの？」と聞かれたんですが、ボク、何を勉強してましたっけ？

なんじゃ、なさない！ おまえはTAWを勉強してないじゃなかったのか。  
TAWの仕組みから実践まで、みっちり学びたいと言ってたじゃないか。それが可能なコースこそ、マスターTAW講座じゃ。

そ、そうでした。

「思考が現実化する。100%例外なく！」。TAWはこれが基本じゃ。まあ、これだけではイメージがつかんかもしれん。サトルよ、おまえが勉強しようと思ったのはなぜじゃ？

思い通りに生きたかったからです。それには、「人生の法則」を知るのが一番早いと思ったんです。

そうじゃ。「**人生の法則**」がわかれば、**もっと意識的に望みを叶えられる**からのう。  
思い通りに生きたい。太古の昔から、人間の究極の願いじゃ。これだけ科学万能な時代になっても、巷では古いやチャネリングが流行っている。みんな、なんとなく未来に不安を持っている証拠じゃ。

### 将来に不安を感じるのはどうして？

そうなんですよ。漠然とした「不安」がいつもあります。いい就職先はあるだろうか、将来、結婚できるだろうか、病気にならないだろうか、お金持ちになれるだろうか、地震や災害が起きないだろうか…。  
もちろん、普段、こんなこといちいち考えていませんよ。でも、ふとした瞬間に、「大丈夫かな？」って思ってしまうんです。それがイヤだから、予定を詰め込んで忙しくしているようなものです。

サトルよ、おまえの思考が現実化していなかったときはないぞ。それが、「思考が現実化する。100%例外なく！」ということじゃ。  
でも、普通はそんな風に思っていないから、「不安」を無意識

に押し込めて生きている。「触らぬ神に祟りなし」というわけじゃ。

「不安」とは、出来事を自分がコントロールできないという怖れじゃ。これが根本的な被害者意識じゃ。

この怖れがあるから、冒険しないように、自分で可能性を閉じ込めて生きている人がたくさんおる。若いおまえにわかるかのう？

なんとなく。未来への漠然とした怖れはわかります。ボクのお母さんも、いつもお金の心配ばかりしています。「疲れた、疲れた」とよく言うんですよ。「もう年だから」が口癖です。

**疲れるのも被害者意識があるからなんじゃ**。目の前のことを自分が創っていると思えないので、やらされているという感覚が抜けない。そして、「もう年だから」と自分をごまかすから、本当に老化していくんじゃ。まあ、お母さんは心配ない。おまえがしっかり夢を現実化していけば元気になるじゃろう。

### 積極的に生きるためにまず何をする？

さて、ワシは長年、脳の使い方を研究してきた。その目的は、**怖れから人間を解放するためじゃ！！**

包丁をイメージしてほしい。包丁は、美味しい料理をつくり、人を幸福にする道具にもなるし、凶器にもなる。だから、子どもや脳の成長が足りない人には、包丁は鍵をかけられた場所に隠される必要がある。すべての道具は、脳の成長度合いによって、使い方が明かされるのじゃ。

人類は、まだ脳の数%しか使っていないと言う科学者もおるぞ。だから、「人生の法則」をいくら教えても、使いこなせる人が少なかったのじゃ。

脳を数%しか使っていないということは、ほとんどの法則（道具）が鍵のかかった戸棚に隠されたままという意味じゃ。

わしは、長年の経験から、**積極的に生きていきたいなら、まず、脳をバージョンアップすることが先だ**とわかったんじゃ。被害者意識がどれだけ能力を制限しているかを知ったら、驚くじゃろう。**ストッパーを外さないと、前に進めないぞ**。

ううう！ なんだか、面白い！ こんな勉強ができるなんて、幸せです！

サトルよ、ようやくおもしろい時代になってきたぞ！

はい！